

Katsurao Collective 2026

プロジェクトビジョン

Self-Sustaining Village

「自活する村」

被災地を「支援される側」から「文化を生み出す側」へ転換する

具体的な実現手段

滞在制作：アーティスト・イン・レジデンスによる関係人口の創出

共創：住民参加型のワークショップを通じた対話の場づくり

拠点活用：休校中校舎を文化インフラとして再生・活用

Katsurao Collectiveについて

東日本大震災による原発事故の影響は村の人々の生活を大きく変えました。12年経った現在もその余波は大きく、村に戻ることができない人々も多く存在しています。一方で、多くの研究者や若者が引き寄せられるようにこの地に集まってきています。

本事業では、アーティストやクリエイターの地域での活動をサポートすることを通じて、村に眠る資源や魅力を発掘します。2022年度「Katsurao AIR」（アーティスト滞在事業）では、地域にアーティスト・クリエイターを受け入れ、彼らの視点から地域の魅力の発掘と調査を行いました。また「かつらお企画室」（ワークショップ事業）では、月一回のワークショップの開催を通じ、地域の魅力に触れる機会を創出するとともに、村内外の人材の交流の場を作り出しました。

ほかにもアーティスト・クリエイターと一緒に活動できるスタジオ整備、コワーキングスペース運営など、さまざまな企画・取り組みを通じ、移住の促進、地域のコミュニティの維持再生、新しい関係性作りを目指します。

現代アートが社会での実践を展開し、アートと社会との接点が深まる現代において、“アーティスト・コレクティブ”^{*}の存在はますます重要になってきています。コレクティブという枠組みは、アート活動を個人主義的な創作活動の枠から解放し、より多様でフレキシブルなアートの形を社会へと提示します。多様な価値観を持ちながら、創造性という価値でつながり一緒に活動を始める。Katsurao Collective は、この地でそのようなコレクティブとなることを目指すプロジェクト名であり、創造性という価値でつながる共同体の名前でもあります。

^{*}共通の目標を達成するために活動するアーティストによって形成された集団



アーティスト・イン・レジデンス、ワークショップ実施

※KatsuraoCollective事業報告書より抜粋 (2021-2025)

アーティスト滞在総数 (累計)

77名

村内パートナー (イベント協力者)

138名

実施プログラム

102回

総参加者・来訪者(2025/1集計時点)

24,696人

メディア掲載(25年度実績)

70件以上

“



数値には現れない 「関係性の質」の変化

活動当初は警戒しヒアリングを断られた村民が、今では大切なパートナーとしてアーティストのアテンドをするような事例も生まれています。また、公共交通がほとんど機能していない村で、“足”のない村民を自主的に展覧会等のイベントに声をかけ連れてきてくれるなど、4年間の村民との対話を経て、**村民とパートナーとなる関係が生まれています。**

同時に、アーティストが地域の何気ない風景や歴史を作品化することで、住民自身が「自分の村にはこんな価値があったんだ」とその価値を再認識し、誇りを取り戻すきっかけが生まれています。

📷 藁もじりワークショップ：参加者の推移

📈 4年間で参加者が年々増加



2022



2023

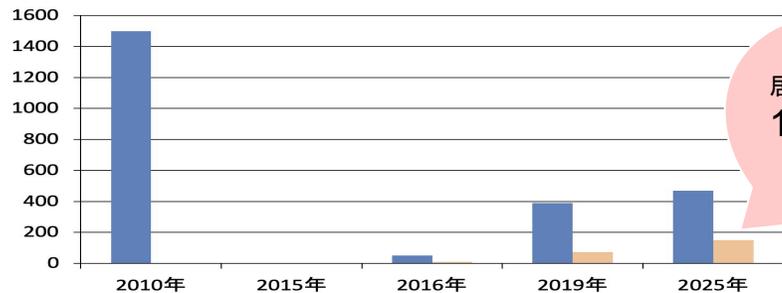


2024



2025

回を重ねるごとに地域内外からの参加者が増え、コミュニティの輪が広がっています



居住人口
1/3が移住者

そんな中で
葛尾村の
抱える課題

「文化を育てる仕組み」が存在していないことで、コミュニティが課題を抱えています。

復興はインフラ復旧を進めたが、地域固有の暮らしや文化、人と人のつながりといった「ソフト」の再生は置き去りにされた。

現在の状況

ハード面と、経済主導の復興に偏っている



ソフト面など、生活文化の再生は住民任せになっている



しかし、住民の高齢化、移住者が文化に触れるきっかけがないなど、住民だけでは難しい状況がある

棒グラフ：村内居住人口の推移

経済復興偏りによる空洞化

産業団地整備などのハード事業が優先され、住民の生活文化や精神的な拠り所となる関係性のケアなどが不十分となっている。

地域内の深刻な「分断」

既存住民、未帰還者、移住者、そして賠償金の有無など、複雑な背景により住民間にも分断が生じている。

文化的環境・学びの場の不足

子どもや新しい移住者が、地域固有の文化に触れたり、学んだりできる機会や場所が圧倒的に不足している。

伝統・生活文化の継承危機

避難生活の長期化と高齢化により、地域の伝統芸能や知恵を持つ「担い手」が不在となり、継承が途絶えつつある。

継続的な仕組みがない

単発のイベントは行われても、長期的な視点で文化を耕し、人を育てるための持続可能な仕組みが存在しない。

③ なぜアーティストなのか！？

特定の「正解」を押し付けるのではなく、多様な解釈と人々を許容する包括的なアーティストの存在が今の村に必要なと考えます。

01 対話を促進する

アーティストの「問い」がきっかけとなり、普段は語られない本音や価値観の交換が自然な形で生まれます。

02 見えないものを可視化する

地域の記憶、人間関係、風土など、数値化できない資源や課題を作品を通じて顕在化させます。

03 分野を横断する

経済・教育・福祉などの縦割りの壁を越え、多様なステークホルダーをつなぐ接着剤として機能します。

04 共創を生む

制作プロセスそのものを地域と共有することで、地域の人々が主体的に関わる余地を作ります。



村民との対話・交流



成果発表・トーク



地域資源・技術の活用

① アーティストは「作品」だけではなく、地域が変わるための「可能性」を地域に持ち込む存在です。

自活する村の実現に向けたサイクル

文化的活動を通じた
「自活する村」実現への4つのサイクル



創造→共有→学ぶ→継承の過程を回していきながら、多様な解釈と人のあり方を許容する地域変革の可能性を生み出し「自活する村」を目指します。

3名の芸術家を招聘し、伝統文化や地域に眠る天然素材の活用などをテーマにした制作プログラムを実施します。地域リサーチを前提とした作品制作を通じ、新たな人の繋がりや文化的な価値を生み出します。

ARTIST 01

鮫島弓起雄 SAMEISHIMA Yumikio

途絶えてしまった文化



テーマ：宝財踊りの現代的解釈

かつての踊りを記憶する住民との繋がりから、伝統的衣装や踊りを再現し、デジタルデータでアーカイブ化。アクリルスタンドの形態を模したアート作品として発表するなど、現代的なアプローチで伝統の継承と更新に取り組む。

ARTIST 02

大川 友希 OKAWA Yuki

途絶えようとする文化



テーマ：三匹獅子の精神性

2024年から三匹獅子の文化や儀式について専門家や住民から聞き取り調査を継続。リサーチを作品へ昇華し、自作の面を使用して地域の人から習った舞をパフォーマンスとして実践。儀式に含まれる精神性の表現に取り組む。

ARTIST 03

杉山 仁彦 SUGIYAMA Yoshihiko

新しい文化



テーマ：葛尾焼き（土の活用）

地域の「土」を素材に窯を作り、新たな焼き物文化「葛尾焼き」の創出を目指す。地域の人々との協働作業を経て、復興後の地域に新たな人の繋がりやコミュニティを生み出しつつある。

共通プロセス

リサーチ・制作・発表の3段階展開

① リサーチ活動

役場、教育委員会、むらづくり公社等と協働。Web/SNSで発信し、記録集を作成。

② 制作・プロセス共有

Important

制作途中にトークイベントやWSを実施。住民や来訪者に活動を知ってもらい価値づけを進める。

③ 発表（11月3日～）

2万人来場の「かつらお恵の感謝祭」に合わせ開催。1ヶ月間の展示で集客を促進。都内イベント、報告書作成など



連携パートナー



行政・企業の協力

- ・葛尾村役場／福島県
- ・村内立地企業（HANERU葛尾 カラーオブカラーズ等）



教育機関との連携

- ・葛尾小学校／中学校
- ・わんぱく教室・キッズクラブ等



地域コミュニティとの協働

- ・盆踊り実行委員会・人形劇
- ・どんと祭り実行委員会

Katsurao Collective



村民

地域コーディネーター / 制作（共創）



アーティスト

リサーチ / 制作

サポート

PROJECT DIRECTOR

実行委員会

全体指揮 / 予算 / 渉外



制作・キュレーション

作家選定 / 展示構成



教育連携・WS

学校連携 / 学び



広報・アーカイブ

発信 / 記録集



会計・総務

経理 / 契約



外部アドバイザー

- ✓ 文化政策・地域計画
公益性とビジョンの監修
- ✓ アートマネジメント
運営品質と倫理規定
- ✓ 事業評価・アーカイブ
成果指標と評価実施

📌 定例会議にて進捗確認

助言・評価

📊 定量指標 (Quantitative)

来場者・参加者

村内イベント、都内イベントの来場者数を計測する。

地域協働の件数

アーティストと関わり、**共創を生み出した**村民の数

♥️ 定性指標と意義 (Qualitative & Impact)

住民の意識調査

「何も無いと思っていた村に気づかなかった**魅力を知った**」「**村を誇りに思えるようになった**」「**村に戻りたくなった**」など、活動を通じた意識変化をアンケートを通じて把握する。

価値化した地域資源

地域固有の資源の内容を可視化する

文化による自立モデルの検証

地域固有の資源を活用した循環型の地域社会モデルの実証

未来への展望：
原子力災害復興地域の「社会実践型活動」として

プログラム社会的文脈との関連付け

日本でも数少ない原子力災害復興地域での実践として、今後の震災復興地域でのアート活動のプロトタイプの一つと位置付ける。包括的社会実践的なアート活動の一事例として、「**自活する村=葛尾村モデル**」を位置付け、将来にわたって社会的な価値を生み出していく。

「村の素材=村そのもの」の価値が高まっていく仕組みへ

地域素材、地域の手仕事から生まれる価値を通じて経済的に「自活」できる仕組みを生み出す。

さらなる展開として.....

国内外への発信と他地域への手法の還元

将来的には芸術祭の開催なども視野に入れて.....



申請額

2026年度 想定内訳

作家フィー 3名	100万
冊子制作	30万
都内イベント	30万
広報	20万
その他	20万

合計 (想定)

200万円

最後に…

👥 村民のサポート

サポートしてくれる村民が増え、アーティストに関わることに興味をもち始めています

🏢 村内企業からの声

村内の企業さんからも「村の魅力向上に不可欠」と存続を望む声をいただいています。

🌐 アーティストからの要望

現在も、レジデンスへの問い合わせや再訪希望が絶えません。村民とアーティスト、活動の核となる人々はしっかりと味方にいます。

🗳️ 商工会での議論

商工会の中でも、アートを継続できる具体的な方法についての話し合いが始まっています。



4年間かけて耕し蒔いた種が、今まさに発芽しようとしています!!!!

🗨️ 今、私たちが求めているのは資金だけではありません。「どうやったら自走できるか」を、一緒に考えてもらえる仲間です。

🚩 地域全体とアーティストという最強の味方と共に、ここから変わる村の光景を作りたい。



地域全体とアーティストの絆（2025年 藁もじりワークショップにて）

そのための第一歩として、本助成金への採択を心よりお願い申し上げます。Katsurao Collective 実行委員会